

新聞各紙の ICMS に関する報道

A. 日積協：『ICMS 第2版』日本語版を作成・HPで公開

[2020-06-17 2面]

日本建築積算協会（吉田倬郎会長）は、『国際建設測定基準（ICMS）第2版』の日本語版を作成し、協会ホームページで公開した。第1版に収録された新設時の工事費や土地購入費、設計費などの投下資本の内容を拡張し、供用開始から処分に至るまで施設が期待する性能を維持するために投下される運営、維持管理、設備更新、処分に係るあらゆる費用の分類に対応している。BIMとのコスト管理分類体系の連携も考慮している。

ICMSは、国や地域を問わず建設プロジェクトのコスト比較と評価を国際的なルールに沿って可能にするコスト分類システムであり、一貫性を持った定義やフォーマットで構成している。

プロジェクトの対象を建築だけではなく道路、トンネル、橋梁などの土木プロジェクトも分け隔てなく扱えることが特長で、第2版では新たにダムと採石場が加わった。

適用範囲をLCC（ライフサイクルコスト）全体に拡張し、プロジェクトのあらゆる資本的支出に対応したことで、国際財務報告基準（IFRS）や国際評価基準（IVS）との関連を強化している。

B. 日本建築積算協会 ICMS 第2版日本語版

2020/6/18 東京版 掲載記事より

日本建築積算協会（吉田倬郎会長）は、国際建設測定基準（ICMS）第2版の日本語版を作成し、6月15日にホームページ上で公開を開始した

(<http://www.bsij.or.jp/info/abouticms.html>)。

2017年7月に公表した第1版に続く第2版は、施設の供用開始から処分に至るまでのあらゆる費用の分類に対応する。第1版で収録した新設時の工事費や土地購入費、設計費に加えて▽運営▽維持管理▽設備更新▽処分一などを盛り込み、プロジェクトの対象にダムと採石場を入れた。

プロジェクトのあらゆる資本的支出に対応したことで、国際財務報告基準（IFRS）や国際評価基準（IVS）との関連が強化される。

C. 積算協 ICMS 日本語版の第2版作成

ICMSは国際基準に照らし合わせて用地や設計費、建設コストなどが積算できる。建築分野だけでなく道路やトンネルといった土木プロジェクトにも利用可能だ。第2版はダムや採石場を対象を拡大。BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）を利用した設計と施工、維持管理にも対応している。

施設管理で重視されるライフ・サイクル・コストの算定も可能なため、国際会計基準（IFRS）や国際評価基準（IVS）と関連付けたコスト判定に役立つ。ICMS第1版は2017年に公開された。

積算協会の国際委員会が英語版を日本語に翻訳。国内企業の国際化を後押ししている。詳細は協会HP (<http://www.bsij.or.jp/info/abouticms.html>) を参照。

ダム、採石場も対象に



日本建築積算協会（吉田倬郎会長）は、40カ国以上の建設関連団体で組織する国際建設測定基準連合がまとめた国際建設測定基準（ICMS）日本語版の第2版「写真」を作成した。施設の管理運営に必要なライフ・サイクル・コストを世界標準で算定が可能。同協会のホームページ（HP）で入手できる。

D.

日本建築積算協会吉田倬郎会長は、国際建設測定基準（ICMS）第2版の日本語版を作成し、ホームページで公開した。ICMSは、国や地域を問わず建設プロジェクトのコスト比較と評価を国際的なルールに沿って可能にするコスト分類システム。用地や施設の取

ICMS 第2版 日本語版を公開

日本建築積算協会

得時における投下資本やコストの比較評価を対象としている。第2版は、1版に収録された新設時の工事費や土地購入費、設計費などの投下資本の内容を拡張し、供用開始から処分に至るまで施設が所期の性能を維持するために投下される運営、維持管理、設

備更新、処分に係るあらゆる費用の分類に対応。これまでの建築や土木プロジェクトのほか、新たに採石場を対象に加えた。

適用範囲をLCC全体に拡張し、プロジェクトのあらゆる資本的支出に対応したことで、国際財務報告基準（IFRS）や国際評価基準（IVS）との関連が強化。さらに、BIMとのコスト管理分類体系の連携も考慮されている。

「建築BIM推進会議」の主要テーマのひとつである、分類体系および積算・コストマネジメントシステムの構築にもつながる。

記号	掲載日	掲載新聞社名
A	2020年6月17日(水)	日刊建設通信新聞社
B	2020年6月18日(木)	建通新聞社
C	2020年6月19日(金)	日刊建設工業新聞社
D	2020年6月23日(火)	日刊建設産業新聞社